

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

した。

まずは蔵の瓦替えと、漆喰の壁の塗り替えです。本堂の瓦の葺き替え工事から始まった一連の事業の最後の工事です。50年ほど前に替えた瓦で痛みがひどく、蔵の断熱効果も落ちてきていたのと、漆喰の壁が次第に剥がれ落ちてきていたので工事の運びとなりました。下の写真は去年の12月16日に撮影したのですが、瓦の葺き替えが終わり、漆喰を塗る算段をし、塗る時期を計っているところです。

皆様から頂いた寄付による改修工事もこれで完成いたします。ご協力誠にありがとうございました。



「全久院の集い」の総代会のところで詳しい報告をいたしますが、本堂正面に法要のたびに飾ってきた「幕」を新調いたしました。昭和57年に作られた幕が古くなり、繊維がもろくなり少しの風でも引き千切られるようになってしまいました。この旨総代の皆様にご理解いただき新調されました。

耐震調査は数年前の地震で本堂内の壁が落ち、被害を受けました。その時調査を始めました。その結果をまとめる段階まで来ました。最終報告はまだですが、明治40年に完成した本堂は震度6ほどの地震に耐えられる、堅固な作りにな

っているそうです。当時の大工が、代々伝わった伝統的な工法で、最高レベルの地震に強い本堂を作ってくださっていました。私も本堂の屋根裏に入って見せてもらいましたが、梁が縦横に走り堅固な構造だという印象を受けました。私個人の考えですが、副住職の晋山式の記念にさらなる耐震化を図り、日本でも大地震が起こる確率が最も高いと言われる松本地域ですので、備えをしっかりとできたらと考えています。

副住職は現在子供の頃使っていた狭い部屋に住んでいます。お寺の中は個人が住めるスペースが小さく、仕事をするにも支障をきたしています。総代の皆様のご了承をいただき、本年庫裏の南側にある駐車場に部屋を建てます。宗教法人の予算にて費用を当てます。進捗状況はこの便りにて報告いたします。

また本年10月18日に表千家の先生の会「長生会」の全国大会を松本市内で執り行います。全久院では濃茶席を担当します。本年も檀信徒の皆様のご協力をいただきながら全久院の事業を進めていきたいと存じます。本年もよろしくお願いいたします。

全久院の集い

坐禅会

・ ・ 「雲巖大悲（うんがんだいひ）」 ・ ・

座禅会では「従容録」を勉強しています。雲巖禅師が後から仏門に入った兄の道吾（どうご）に「観音様はどんな働きをするか」を問う問答が綴られています。観音様は三十三の姿に身を変えて、苦しむ人々を慈悲の心をもって救済する仏さまですが、道吾は「人の夜間に背手（はいしゅ）して枕手（ちんす）を探るがごとし。（夜頭から外れた枕を後ろ手に探す

ような働きをする)」と答えました。禅問答の典型ですね。寝相の悪い者が寝ぼけながら無意識に後ろ手して枕を探すのが、なぜ観音様なののでしょうか？

寝入っている時は知らずに枕が外れます。そして知らずに探してまた元に戻して頭を載せています。まるで手の先に目が付いていて枕を探し当てるかのようです。手に目が付いているということと千手千眼観音様の手がそうです。それをこのような問答に譬えたのでしょう。自然は全く作為なく季節を進めます。例えば春は春という形はないのですが、春になると何処からともなく花が咲き始め、鶯が鳴き始め、私たちに春が来たことを知らせます。春が春を呼び寄せたり、春が春だと主張したわけでもありません。作為なく、無意識に春が現れます。ですから私たちも春を満喫できるのでしょうか。意識的に、作為的にされた慈善行為はなんとなくうさん臭くて、有難迷惑ですよ。ダイヤモンドもどこまでも透き通った透明感が輝きの源だと思います。私達の心が透き通っていなければ、どんな行いも相手には不快なものです。このような行いを禅では「妙用（みようよう）」といいます。良いことをしてやろうなどという意識がないところで、自然に出てくる行為に、誰からも受け入れられる妙なる働き＝用、があります。

しかし自然にと言っても何もしないでは自然に出てきません。日ごろ私たちも作為のないところで人々に尽くす行為を積み重ねることで、毎日毎日積み重ねる努力をして初めて、意識なく自然に慈悲の行為が出てきます。こういった毎日毎日の積み重ねが私たち求められています。毎日毎日、朝起きると枕に頭を載せていることに禅の心があります。

観音講

観音講は十月小旅行をしています。今年は奈川村の蕎麦を堪能しました。10月17日総勢15人がお迎えのバスに乗って奈川村に向かいました。奈川村は自前の蕎麦粉や、とおじ蕎麦で有名ですね。今年はマツタケも豊作で、まずはマツタケ鍋。次にマツタケが山盛りの汁に蕎麦をしゃぶしゃぶするとうじ蕎麦を満喫してきました。観音講の皆様もお喋りのための口がこの時ばかりは蕎麦とマツタケをほうばる口になっていました。ゆったりと秋の一日を過ごすことができました。



ご詠歌の会

10月18日 第21回梅花流長野県奉詠大会が東北信より300人、中南信より900人ほどの参加者を集め、長野市のホクトホールにて開催されました。宗務所の任期が4年で、任期の中ごろに東北信の第一宗務所が長野で開催します。任期の最後に中南信の第二宗務所が松本で開催します。全久院からも私を含め3人が参加しました。左の写真の左の方が松尾智子さんで「大聖釈迦如来成道御和讃」をお詠なえいただきました。



参加人数でお分かりのように、中农信地区の方がご詠歌が盛んで、特に伊那地方が盛んです。お通夜やご葬儀の時、近所の方が集まりご詠歌をお詠なえするそうです。その地域の文化や伝統としてご詠歌も根付いています。

私も現在第二宗務所の副所長を任命されており、ステージに立ちました。2年後松本市で開催される22回大会の勧誘の言葉を述べてきました。第二宗務所の任期も半分が過ぎ後2年です。こちらもう少しの頑張りです。

施食会 恒例の法要を8月5日に行いました。10時半頃には檀信徒の皆さんが集まり始め、総代の皆様の受付を済ませていただき、しばし本堂で涼んでいただきました。12時からお寺伝統のお弁当、12時半からSVAで専務理事を務める瑞松寺住職 茅野俊幸師の海外での活動の話し、13時から全久院歌の会の合唱、14時からの法要と続けました。毎年200名ほどの皆様にお参りいただいています。



総代会 本堂の幕を新調しました。先にも書きましたが、幕が古くなり、切れるたびに母が繕っていましたが、布がもろくなり、縫い目から生地がボロボロ解れてきてしまうようになり、これ以上繕い直すことができなくなりました。市内の手塚屋仏壇店さんをお願いし新調いたしました。厚手の木綿の生地幕です。今日伝統的な技術が段々廃れてきている中で幕も同様、職人さんがいなくなり簡単に買い替えることが難しくなりました。総代の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、ご寄付をいただきなんとかお盆の施食会には間に合い皆様に披露することができました。総代の皆様には感謝申し上げます。

茶道コーナー

同門会全国大会愛知犬山大会

私は先代に引き続き表千家長野県支部の事務長を仰せ付かっています。役目柄全国で開催される茶会に参加して、他の支部がどんな活動をするのかを見てきます。そんな中でいろいろな方と知り合いになっています。年に一度開かれる事務長会で九州の事務長さん

とも懇意にさせてもらうチャンスを得、1月の中旬に模様される初釜にお呼びいただけるようになりました。何度か全久院の社中と参加させてもらっています。今回の犬山大会でも九州の事務長さんと同行し、茶席を回りました。織田信長や豊臣秀吉は深く茶道とかかわりがあり、愛知県はその地元ですので、彼らにまつわる茶道具が茶席に出てきます。織田信長の弟、織田有楽斎はNHKの「真田丸」では家康に内通する悪役を演じさせられていましたが、一方では利休の茶道の弟子で、自らも弘庵という茶室を造り、茶道ではひとかどの働きをして、その名が知られています。その茶室が現在犬山に移築されており、茶の文化が色濃くこの地に残っています。愛知県支部長さんはお茶の造詣が深く、今回も濃茶の席を持たれました。その席には利休の二代目小庵作の竹の花入れ、楽三代の道入の赤楽茶入、楽初代長次郎の黒茶碗、利休作の茶杓など美術館のガラスの向こうにしか見たことのない茶道具が並びました。信州の表千家の茶道は戦後に始まったようなものですので、文化の厚みが全く違います。道具がない、歴史がないなどと嘆かず、めげずに毎日の稽古を一つ一つ積み重ねるしかないと自分に言い聞かせました。でもすごいところにはすごい物がそろうんですね。



表千家松本地区茶会 昨年11月3日（文化の日）に恒例の茶会を開催しました。今回も全久院社中だけではなく、松本市内の表千家の先生社中全員による茶会となりました。会場は全久院、濃茶を金井先生の社中、薄茶を佐々木社中、麻和社中、松田社中、全久院は点心を担当しました。愛知県のすごい道具は松本にはありませんので会記（茶会に使う道具の一覧表）に載せられる道具は使わないという申し合わせをしてあります。それぞれの先生が創意工夫して、高価な道具を使わずに開く茶会です。



茶席を担当する者、お客様を合わせて200人ほどが参加し、9時から点心席を含めて3席を回りました。今年は季節の進み方が不規則で、まだまだ紅葉は先でしたが、秋の暖かな一日を穏やかに過ごすことができました。

茶杓作り 表千家には家元のための茶道具を作る10の家柄の職人さんがいます。家元とともに千家の茶道を代々支えてきました。その中に黒田正玄家があり、竹の細工を担当しています。その家の新宅に当たる黒田正傳氏に來松いただき、昨年8月28日に茶杓の削り方を教えていただきました。15センチほどの抹茶をすくうスプーンを竹から削り出してゆくだけのことなのに思

うようには削れません。ちょっと力を入れ過ぎると、竹は真っ直ぐ裂けてしまいます。自分が思い描くのは曲線なのに、一直線に避けて行ってしまいます。また節が味わいの出るところなので趣良く削ろうとすると硬くて刃が立ちません。

先生に手直しをお願いすると、いつも使っている箱を前に座り専用の小刀を構えます。その瞬間に、職人！座った姿がもう存在感の塊になっていました。いとも簡単に小刀を扱って思い通りの茶杓に仕上げてくれます。

実際に茶杓を削ってみると、茶道の作法の中で「茶杓の拝見」がありますが、今までなんとなく見ていただけの茶杓でしたが、茶をすくうために茶杓の先をどのような形状で削ってあるか、全体の削りの形状、父子の裏の固い部分の形やアーチがどうなっているか、末端の削り落としの形状など、削った人がどう削ろうとしたかを見ることができるようになりました。ただ竹を削るだけのことに、どれだけの思いと価値があるかに気付かされました。



法要の会場は是非お寺をお使いください

このコラムを掲載して数年になります。檀家の皆様にも次第に浸透してきて、寺で

の法事や葬儀が増えてきました。しかし、時代の流れは激変しています。都会では火葬をした後遺骨を残し、火葬場から遺族が消えてしまったとか、遺骨をこのまま捨ててと職員に頼み込んだりという事件が多発しているそうです。あるいは、火葬して葬儀を行わず、だれにも知らせず墓に埋骨するなど、社会と個人がバラバラにする風習が広がっています。それが都会に近い松本に入り込むことを心配しています。身内やお世話になった人々ときちんと送る儀式をしないで、故人の一生を投げ出してしまうような送り方をもう一度考え直す時に来ていると思います。

また、葬儀にかかる費用も考えなくてはならないと思います。知らずに業者に任せて、請求書を見てびっくり！という話を何度も聞いています。寺とホールの葬儀費用を比較してみます。たとえば100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、ホールを使う業者ではお参りの人一人当たり25000円かかるという計算をしているようです。100人の会葬者があるとすると、100人×25000円＝250万円。寺を使えば一人当たり10000円ほどですので、100人×10000円＝100万円。差し引き150万円の差が出ます。大変な差が出ると思いませんか？

寺を使うと人手がかかって大変ではないか？とお考えかもしれませんが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部「ことの葉」（電話32－8722）か、メモリアルライフ信州（電話40－7745）へ電話するだけです。後の手続きはみな業者がやってくれます。業者も対応の仕方が慣れてきて、心配りが大変嬉しかったとの声も聞いております。

葬儀や法事は宗教的な儀式を通じて、悲しみや心の乱れを整え、亡くなられた方の分まで生きようという力にかえる過程だと思います。その場は寺がふさわしいと思います。ピンと張った空気や静けさ、木や土や畳で作り出される空間で人は癒されると思います。様々な事情で仕方がない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っていきたいと思います。イスに坐っていただけのように、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非ご一考ください。

いざという時では時間に追われ、後で後悔というようにもなりかねません。自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

りらの会にご協力ください 寺での法要の手伝いをしていただいているグループ「りらの会」の紹介は以前からしていますので、皆様もご存知のことと思います。檀家の皆様からも手伝いの依頼をいただくようになりました。現在は１０人ほどで、週一回金曜日の掃除、随時依頼される法要の手伝いをしていただいておりますが、依頼が多くなり人数が足りなくなっています。檀家の皆様にもぜひ会員として登録いただき、お手伝いいただきたいと思います。お手伝いには、１時間１０００円ほどのお礼を差し上げていますが、そのうちりら会に運営費を若干納めていただいております。是非多くの方に仲間になっていただき、お寺の手伝いをお願いできたらと思います。「人のお手伝いをさせていただける分、させていただいている自分のほうが心豊かになっているように感じます」と会員の方から言われ本当にうれしく思っています。皆様のご参加ぜひご参加お願いいたします。

住職の活動

絵本を東南アジアの国々へ贈ります、お手伝い募集！

SVAは東南アジアの国々へ絵本を贈っています。日本語の絵本に現地語の翻訳文を糊付けして贈るのですが、その糊付けを日本国内の学校や寺院などのボランティアを募って、作業をしてもらっています。その糊付けが正確にできているかをチェックする作業を全久院でしています。「外国語は読めません」なんて言わないでください。私も読めませんが、どなたでも簡単にチェックできます。１月２０日までに２０００冊のチェック作業を終え、横浜港に搬出する予定ですが、ボランティアが足りません。左の表の日程で作業を進めます。昼の部は木曜日の１３時～１６時、



夜の部は火曜日の１９時～２１時などで、全久院の稲荷堂で行っています。１月中の作業になりますので、このボランティアに興味のある方、寺まで問い合わせください。

私も現地を視察した時に何度もこの本を手にして読んでいた子供、弟や妹に読み聞かせていた子供たちを目にしました。この子供たちが発展途上の国の礎を担う人に育っていきます。ちょっとしたコツを覚えていただければ誰にでもできる作業です。是非お願いします。

昼の部		夜の部	
１３時～１６時		１９時～２１時	
(木曜日)		(火曜日)	
１月	１０日		１０日
	１２日		
	１７日		１７日
	１９日		１９日
	２０日(金)		２０日

大黒コーナー

ヴェルディ作曲オペラ『第一次十字軍のロンバルディア人』公演

大黒の主宰する「オペラを楽しむ会」主催の第６回公演が１１月２５日(土) １７時３０分より、２６日(日) １４時より、ダブルキャストによる２公演、キッセイ文化ホー

ル大ホールにて開催されます。

このオペラは、十字軍という壮大なテーマの中に親子、兄弟、男女の人間模様を織り込んだストーリーを展開します。この中で歌われるアリアは技巧的に至難で、聴きごたえがあり、これを歌いきれるソリストは世界的にも少ないと言われています。

劇はイタリア、ミラノに始まります。美しい女性ヴィクリンダを巡り、ローマ貴族の兄弟アルヴィーノとパガーノが争います。ヴィクリンダとアルヴィーノが結ばれ、パガーノは兄を殺す計画を立てます。計画がばれ追放されます。イスラム教徒に聖地を奪われたことで司祭はアルヴィーノに十字軍編成を依頼します。一方パガーノは兄への恨みが募り兄を殺そうとして、誤って父を殺してしまいます。

一年後、十字軍の迫るイスラムの王宮。王子オロンテは捕らえられたアルヴィーノの娘ジゼルダと愛し合うようになります。そして逃避行、オロンテの改宗、紆余曲折の後共に戦うアルヴィーノとパガーノ。息をつかせぬストーリーが美しいアリアとともに進行します。

ソリストの練習は昨年からはじめています。指揮者の澤木和彦先生も、発声や、イタリア語の発音など、細かいニュアンスも織り交ぜながら指導していただきます。合唱も、『体を使った発声で、体は健康に、頭脳はすっきりと明晰に、体はすっきりシェイプアップ！！！？楽しくやりがいのある練習をして、本番に向かいます。』『おもしろそうだな、やってみたいな…』と思われた方合唱団募集も行っています。その他弦楽器、管楽器、打楽器奏者も募集しています。練習や費用については倉科京子（０２６３－３６－３２１１）へお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

掲示板 （皆様のご参加お待ちしております）

なお、下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を確認の上お越しく下さい

・ ・ ・ 檀信徒護持会新年総会 ・ ・ ・

1月14日（土）4時より全久院で開催します。全久院の催しに参加していただいている方々など、より多くの方に参加していただきたく企画しています。茶道部の皆さまの協力により、3時40分より茶室にて薄茶を差し上げます。お正月の新たまった飾りつけの中、日常とは少し違った雰囲気味わい、檀家の皆様にも堅苦しくなくお茶に触れていただこうと思います。4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告など承認いただきます。4時30分より本堂にてお参り、その後座禅会の皆様と5分間座禅、4時50分より懇親会。懇親会ではご詠歌の皆さんと観音講の方によるご詠歌の奉詠を数曲お願いします。また南こうせつさん作詞作曲の「まごころに生きる」を皆さんで合唱します。次に観音講や歌の会「花かんざし」の皆さんで歌っている唱歌を何曲か、みなさんにも歌詞を配り合唱していただこうと思います。一年の初めを皆さま心豊かに過ごし、良い年であるよう祈念したいと思います。総代様のお顔を覚えていただいたり、人柄に触れていただき、全久院のことをいろいろ語り合いたく思います。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は1月13日（水）までに電話でご連絡ください。

・ ・ ・ 座禅会 ・ ・ ・

毎年恒例になっています**青山俊董師講演会**は師と日程を調整しています。決まりましたらお伝えいたします。座禅会の予定は

2月18日(土)・3月18日(土)・4月22日(土)・5月20日(土)・6月17日(土)・7月22日(土)・9月16日(土) 以上が上半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。

．．． **ご詠歌会** ．．．

2月9日(木)・3月9日(木)・4月13日(木)2時より・5月11日(木)・6月8日(木)・7月20日(木)・9月14日(木)

午前10時半より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。

．．． **観音講** ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱、11時20分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在15人ほどの参加者がいます。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． **歌の会「花かんざし」** ．．．

1月11日(水)・1月18日(水)・2月1日(水)・2月15日(水)・3月1日(水)・3月15日(水)・4月5日(水)・4月19日(水)・5月10日(水)・5月31日(水)・6月7日(水)・6月21日(水)・7月5日(水)・7月19日(水)・9月6日(水) 大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。時間は10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

．．． **ホームページを開設しました** ．．．

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院の催しに参加する若い方から、「全久院報を配っているようだけど、すぐ仏壇に上げられてしまうようで見たことがない。若い人にはコンピュータのほうが身近だからホームページにしてくれないか」との要望がありました。全久院報も全久院を知っていただけるようさまざまなコーナーを作ったので、それをそのままホームページようにすることが出来るとのことで、コンピュータ管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんに依頼して開設していただきました。将来は皆様と意見や情報を交換できる場に育てて行きたいと思います。ぜひ一度開いて見てください。